

統合報告書とSDGs開示

2019年3月8日

東京大学

仲 浩史

統合報告書とSDGs



出所：IIRC統合報告フレームワーク

http://integratedreporting.org/wp-content/uploads/2015/03/International_IR_Framework_JP.pdf

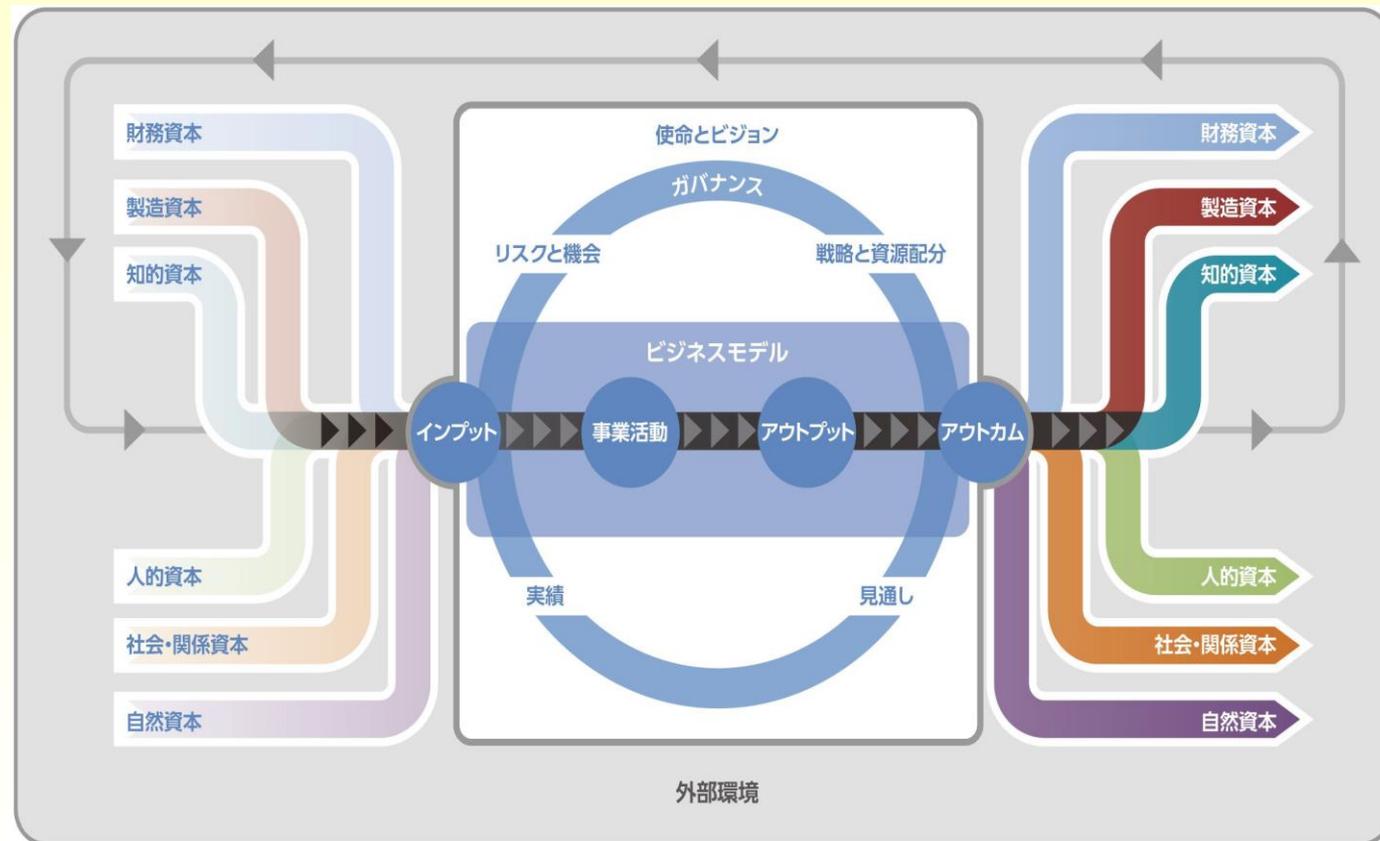
- ◆ 価値の創造には二面。
 - 組織そのものに対するもの
 - 他者に対するもの
- ◆ 組織のSDGsに関する活動は、主として「他者」である社会に対して、その持続可能性を向上させるという「価値」を創造するもの。
- ◆ その経路はいくつかあり、経路ごとに開示することが統合報告書利用者には有益ではないか。
 - 事業活動そのものを通じる直接的経路（eg.企業の途上国投資）
 - 事業活動を通じる間接的経路（eg.温暖化ガス排出削減）
 - CSR活動を通じる経路（eg.寄付）
- ◆ 創出された価値の資本へのアウトカムも経路により異なる（財務資本、社会・関係資本、自然資本・・・）。

SDGsを開示の面から推進する上での課題

～SDGsが一過性の流行りで終わらせないようにするために～

- IIRCフレームワークのように、統合報告書を価値創造についてのコミュニケーション・ツールとして明確化すること。
 - 400社ほどが統合報告書を開示しているが、その目的は様々で明確でない。
- その上で、統合報告書の中でSDGsの開示を明確に位置付けること
 - 企業が取り組むSDGsは価値創造の一側面。
 - 企業はそれを明確に意識し、全体的な価値創造の中でSDGsによる価値創造を検討すべき（「統合思考」の適用）。
 - SDGsだけを切り出して開示を推進することには限界。
 - ✓ 何のためにSDGsに取り組むのか理解しづらい
 - ✓ 何のためにSDGsに関して開示するのか便益が分からない
 - ✓ ESGファクターの開示も同様の問題あり
- こうした努力がSDGsへの企業の取組を「持続的な」ものにする。

(参考) IIRC統合フレームワークにおける 価値創造メカニズム



出所：IIRC統合報告フレームワーク

http://integratedreporting.org/wp-content/uploads/2015/03/International_IR_Framework_JP.pdf